

## 工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	<b>学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性</b>
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、 <b>学部の教育学習目標との整合</b>
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	<b>工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置</b>
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、 <b>試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定</b>
5	中等教育との連携に配慮していること	<b>2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映</b>
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザー、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講</b> 、奨学制度、 <b>総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目

## 工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、学部の教育学習目標との整合
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、 <b>試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定</b>
5	中等教育との連携に配慮していること	2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザー、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講</b> 、奨学制度、 <b>総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目

## 工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	<b>学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性</b>
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、 <b>学部の教育学習目標との整合</b>
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	<b>工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置</b>
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、 <b>試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定</b>
5	中等教育との連携に配慮していること	<b>2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映</b>
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザー、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講、奨学制度、総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目

## 工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	<b>学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性</b>
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、 <b>学部の教育学習目標との整合</b>
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	<b>工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置</b>
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、 <b>試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定</b>
5	中等教育との連携に配慮していること	<b>2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映</b>
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザー、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講</b> 、奨学制度、 <b>総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目

## 工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	<b>学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性</b>
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、 <b>学部の教育学習目標との整合</b>
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	<b>工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置</b>
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、 <b>試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定</b>
5	中等教育との連携に配慮していること	<b>2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映</b>
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザー、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講、奨学制度、総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目

工学部教育システムの満足すべき要件と、考えられる施策・その実施状況

	工学部教育システムの満足すべき要件	考えられる施策
1	工学部としての教育・学習目標が明確であること	<b>学部の教育学習目標の設定、共通教育の再構築、教育課程作成のスタンダードと学科の独自性</b>
2	各学科の教育・学習目標が明確であること	各学科の教育学習目標の設定、 <b>学部の教育学習目標との整合</b>
3	学部として教育改善のPDCAのサイクルが回ること	<b>工学部教育改善委員会（仮称）の設置、教育研究センター等による教育の内容を検討する場の設置</b>
4	国際的に認められるレベルの学力を保証できること	JABEE、試験レベルの適正化、工学部教育改善委員会（仮称）の設置、例えばGPAによる進級・卒業条件設定
5	中等教育との連携に配慮していること	<b>2006年問題への対応、高校新カリキュラムの内容確認、カリキュラムへの反映、教育システムへの反映</b>
6	大学院との連携に配慮していること	<b>3年卒業、修士授業科目聴講、ゆるやかなコース制構想、大学院カリキュラムの体系化、6年一貫教育</b>
7	工学部としての基礎的な学力を保証できること	基礎学力の定義、モデルカリキュラムと学科教育課程との関係、工学基礎科目構想、汎工学科目構想
8	英語基礎能力を保証できること	受験補助、専門学科と連携、外部試験受験奨励、外部試験結果の科目成績への反映、 <b>進級条件化、英語単位の2単位化、単位数増、自学自習システム</b>
9	専門基礎能力を保証できること	コア科目の設定、科目数厳選と重点的少人数&個別教育
10	専門分野の独自性に配慮していること	JABEE、コース制、 <b>工学部レベルでの施策と学科レベルでの施策の整合性</b>
11	学生の科目ごとの達成度を客観的に測る尺度を持っていること	評価方法の公開、 <b>学生による評価結果の確認</b>
12	学生の総合的な達成度を客観的に測る尺度を持っていること	<b>進級条件</b> 、取得単位数による退学勧告制度、卒業研究着手条件、学科ごとの特徴ある成績順位評価、 <b>総合的達成度評価</b>
13	到達度の低い学生に行き届いたケアをできること	学習支援室、アドバイザ、担任、補習クラス、 <b>学習図書館、自学自習保証、総合的達成度評価指標</b>
14	到達度の高い学生の向上心をより増進できること	<b>3年卒業・修士推薦進学、修士授業科目聴講</b> 、奨学制度、 <b>総合的達成度評価指標</b>
15	学習時間を保証できること	学習支援室、学年暦により13週の授業保証、学年暦、補講確認システム、履修単位数上限、 <b>自学自習保証</b>
16	e-learningの推進	<b>推進のための検討開始</b>
17	学生及び保護者に満足を与えること	<b>授業料に見合った教育内容、施設、進路</b>

普通文字の項目：実施済みあるいは実施中の施策（学部全体、あるいは学科単位）

太字の項目：実施していない項目